

「グループ中国だい好き」会報 『中国だい好き』

我们很喜欢中国!

Women hen xihuan zhongguo!

- 代表 内田知行 042-464-8858
〒203-0034 東久留米市弥生2-7-13
- 編集・発行グループ
内田知行 川村隆子
千田 茂 富岡幸雄
- <http://kuru2.genki.365.net/>(くるくる)
- <http://zuixihuan.exblog.jp/>(ブログ)

2014新春餃子パーティーのお知らせ

毎年恒例の新春餃子パーティーを下記の要領で行います。ふるってご参加ください。

日時	1月 26日 (日) 13:00~16:30
場所	東部地域センター調理室 東久留米駅東口徒歩10分
進行	第1部 餃子作り 13:00~15:30 第2部 交流会 15:30~16:30 片づけ 16:30~17:00
会費	500円
申込	1月 23日迄。一般会員、中国人など 川村さん 042-471-3960 中国語教室の学習者 各班毎に参加者をまとめ川村さんへ



中国だい好きの餃子パーティーでは、毎年男性陣の活躍する姿が目立ちます。2013年新春餃子パーティーより

●一口知識

- ・2014年の春節は1月31日(金) 2013年の除夕(chuxi=大晦日)は1月30日(木)
- ・春节联欢晚会(chunjie lianhuan wanhui=中国版紅白歌合戦)を簡単に見る方法
 - ① インターネットの「中国だい好き」のブログを開く (<http://zuixihuan.exblog.jp>)
 - ② トップ画面右下の「相互リンク&中国関係のHP」の中から「CCTV(中国中央電視台)」をクリックする。
 - ③ テレビチャンネル(地方局、衛星テレビもある)の中から「CCTV-1」をクリックする。
*「CCTV」を“お気に入り”にいれておくと、いつでも中国のテレビ、映画が見られる。

2013年 中国を知る講演会 第2回

日本の移民系コミュニティの変化 —東アジアを中心に—

2013年11月10日（日）13:00より、男女平等推進センターで第2回の中国を知る講演会が行われました。講師は崔学松（Cui Xuesong）先生（東京大学教養学部非常勤講師）。

講演のポイントは、「今や国籍や民族など国家ありきの視点よりも、大切なのはむしろ個々の問題にどのような立場からどのように対応するかということであり、そうした立場の違いを自分で考え選びとっていくことである。自分の根っこは守りつつも、他者を柔軟に受け入れ、共生の道を探る生き方を考えたい」というまさに時宜にかなったもの。プロジェクターを使用してのお話はたいへんわかりやすく好評でした。

講演終了後、聴講者全員に崔先生より最新のご著書『中国における国民統合と外来言語文化—建国以降の朝鮮族社会を中心に』（創土社 2013年5月）が1冊ずつ贈られ、みなビックリ、感激！ その後、近くの喫茶店に場所を移しての交流会は2時間に及びました。

崔先生は本年4月から静岡県浜松市の大学で教壇に立たれます。ご活躍を心よりお祈りいたします。



ベトナムところどころ

星 瑠璃子

ベトナム旅行から帰って程ないある夜、NHK BS1で「ベトナム・ザップ将軍の貴重な体験」という感動的なドキュメンタリーを見た。

ベトナム北部山岳地帯ディエン・ビエン・フーでフランス軍と闘ったベトナム軍の指揮官、先頃102歳で没したボー・グエン・ザップが訥々と語っていた。1954年、過酷な戦いに奇跡的に勝利した後、ザップはホー・チ・ミンに会う。彼の肩を抱いてホー・チ・ミンは言う。「おめでとう。次はアメリカだね」。

その言葉通り、更に過酷な「ベトナム戦争」が始まるわけだが、私がベトナムという国とともに向き合ったのは、このときが最初だった。

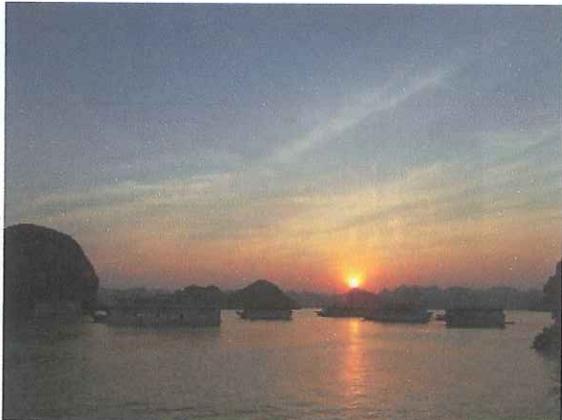
そのベトナムへの初めての旅だった。

ベトナム旅行と聞いて後先考えず参加を申し込んだのは、私の心に戦争というものが近年ますます重くのしかかってきているからだろうか。

とはいえる、「ベトナム戦争」が終わってもう40年近い。どの戦いも人々の心の奥深く沈み、もう誰もあまり思い出したりはしない。

ハロンからYEN TU山へ行く途中、あるいはそこからHOA YEN寺へ登って行く間、しきりにそんなことを考えていた。

美しいハロン湾でもそうだったが、むかし見たカトリーヌ・ドヌーブ主演の映画「インドシナ」の、あの場面が撮られた場所は、そうかここだったのか、などと思いながら緑に包まれた長い石の階段を登った。排気ガスや光化学スモッグでどんよりと曇っていたハノイに較べ、ここには青い空が広がっている。



夕日のハロン湾

その静かな広い空の下、山の中腹に立つ懸崖作りの寺に、また頂上近くの岩山のてっぺんに、まばゆいばかりの堂々たる金ぴかの仏像が安置されていた。どうしてこんなにけばけばしく塗りたくるのだろう。「造られた姿のままに」と塗り替えているのだろうか。

侵略に繼ぐ侵略の長い歴史を生きてきた、忍耐強く勤勉なこの国の人々にとって、金ぴか仏こそが生きた信仰の証なのだろうか。

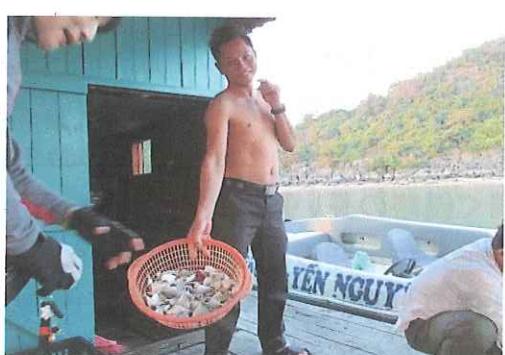
奈良や京都の、色など剥落して「自然」と同化したような仏たちの姿を思い浮かべながら、私は何やら呆然として記念撮影の列にも入れないのでいた。滅び行く姿だけが美しいわけでもあるまいに。

なつかしいベトナムの人たち

●ハノイの市場前の路上にて



●ハロン湾にて



順序は前後するが、4日目に行った国境の街、モン・カイの話をしよう。

ガイドブックにも載っていないその街に、私たちはハロンから片道6時間もかけてたどり着いたのだった。地図がなく、どこを走っているのか全く分からぬままバスはひた走り、埃っぽい田舎の村々を通り抜けた。建て直しているのか、壊れかけた小さなバルコニー付きの家々を幾つも見かけた。「普請中」と、近代日本の姿を評した森鷗外の言葉をいつでもどこでも思い出した。

道幅が次第に広くなり、遠くにビル群が見え始めたなと思うと、そこがモン・カイである。昼は賑わいを見せるのであろう広い通りは、夜ともなると、ただただ広い暗い街に変わる。この交易の街にどんな歴史があり暮らしがあるのかも分からぬまま、その夜は疲れきって眠った。

翌朝は国際国境門を通過、中国側の東興に出た。さして広くもない川ひとつ隔てただけだが、ベトナム側には較ぶべくもない活況だ。エネルギーに満ちあふれている。

これが中国か！ 広大な中国大陆の南端にちらと足を踏み入れただけでびっくりしてしまう。ベトナムのそこここで見かけた中国人旅行者の傍若無人ぶりも何だか納得がいくようである。



国境を流れる川



客引き？の中国人お兄ちゃん

ここもお昼を食べただけで終わってしまったが、客引き（？）の中国人お兄ちゃんが案内した中国料理は美味しかった。お兄ちゃんにカメラを向けると、自信たっぷりにポーズをとった。含羞に満ちたベトナム人とはずいぶん違う。

美味しいと言えば、ベトナムでの食事はいつも美味しい、われながら呆れるほど食べに食べた。まるでそれしか楽しみがないかのように（じっさいそうだったのだけれど）。

成田からの飛行機で隣り合わせた人が日本の内科医で、ベトナムで急増する糖尿病対策の会議に出席するのだと言っていたのを思い出した。

まるまる太った豚や鶏や果物を満載した軽トラックをよく見かけたが、地元の新鮮な食材が、こここの料理をこんなに美味しくするのだろうか。

掉尾を飾るのが、金田さんの会社で働く女性リエンさんのお宅でいただいたお昼ご飯だ。果物で色付けした「お赤飯」が忘れられない。

リエンさんは大学を出た後、日本でも学んだことのある方。ハノイの町外れ、小道に面したシャッター奥の質素なお宅で、寝室にもなっているらしい上がりかまちにゴザを敷いて、所狭しと並べた手料理の数々。たどたどしいけれど正確な日本語、人なつこい笑顔こそ、ほんものの「おもてなし」だった。

この人たちの祖父や父たちが戦い勝ち取った民族の統一、独立。過ぎた戦争のことなど忘れて、人々は静かに、つましく、けれども未来を見つめて力強く生きている。あちらこちらで見かけた顔を、ひとつ、また一つと思い浮かべている。短い旅の、心温まる思い出である。



リエンさんの家はこの路地の奥にある



リエンさん(左)のお宅でお昼ごはんをいただいた。Thuyさん(右)はバスに乗って案内をしてくれた。

中国だい好きグループ 初のベトナム旅行 —ハノイ、ハロン湾、モンカイ、東興の旅—

元会員 金・田 筆

12月1日～12月7日まで、私たちはベトナムのハノイ・ハロン湾・モンカイ、そして中国の都市、東興へ行ってきました（成田到着は8日午前中）。

私が同行させていただきましたが、この1週間は好天に恵まれ、楽しい？旅でした。

ハノイに12月1日の午後3時頃到着。空港から市内へ、初めに精進料理の店へ行きました。

そこは日本人には評判の店で、橋場さんの希望により、普段はビールしか飲まない私ですが、赤ワインを注文しました。そうしたらこのワインの美味しいこと。すぐに、ワイン党になりました。

夜は夜店を巡りましたが、すごい人ごみで、みなさん、ちょっと疲れただけのようでした。



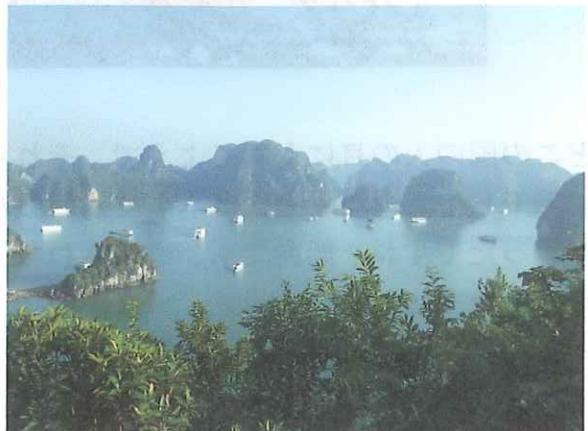
ツアー参加者は7名、右は案内のThuyさん

二日目は、朝からハロン湾に向かいました。

ハロンはハノイから170キロ、約4時間半のバスの旅です。到着後、すぐにクルージング

船に乗りました。船上では意外に揺れを感じず、静かで乗りごこちは満点。船酔いが心配な方でもその不安が吹っ飛ぶほど揺れませんでした。

ハロン湾 (Ha Long 下龍) は、北部ベトナム唯一の世界遺産。海に岩が林立した素晴らしい風景です。季節的には空の碧い夏がよいのですが、暑い時期を避けたい方には11月～12月がいいですね。



俯瞰する場所から見る風景が一番ですが、水泳をしたり、釣りをしたり、カヌーで岩山の近くに接近したり、ただ、登れる岩山はありません。

船内の料理はとくに美味しかったですね。欧米人が多いだけに料理は欧米人向きですが、まあ、ベトナム風欧米料理とでもいいましょうか？

船内のキャビンは7部屋で、ツインでも一人でも値段は同じようでした。飲み物の値段は、陸に比べるとちょっと高いようですが、これは仕方がないことでしょうか。

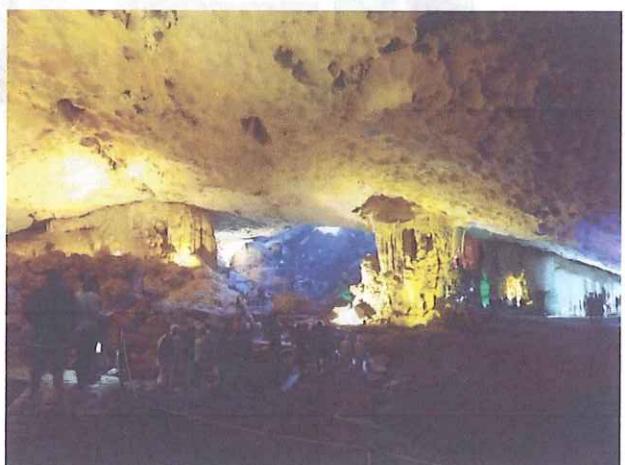
船で一泊しましたが、一晩中バイクの騒音が聞こえずぐっすり眠れました。船はまったく揺れないし、音もなく、周辺に20艘の大小の船が停泊していましたが、カラオケの音は聞こえたものの夜中は本当に静かでした。

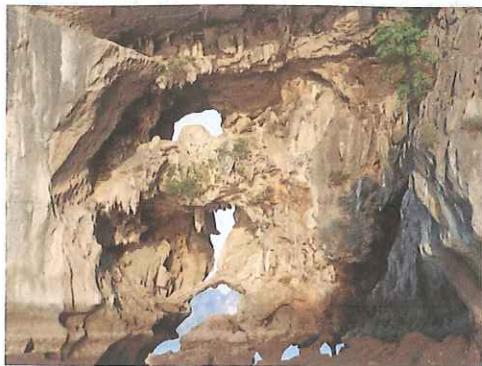
ハロン湾には大小を含めると 1000 艘の船があるそうですが、この様な船も人気のようです。ただ、私たちの乗った船にカラオケがなかったのはカラオケファンとして残念でした。

翌日は鍾乳洞の見学です。ここ観光名所は洞窟巡りで、洞窟内は美しい照明がなされ、世界遺産になったせいでしょうか、以前よりは、派手さはなくなりましたが、それなりにはされていました。

天候にも恵まれ大勢の人が見学にきていました。その後、モーター舟で周辺の島の見学です（オプション、7 \$）。

ライオン岩、○○犬岩、など、いろいろな動物の名が岩に付けられていました。見える格好





はどこの国の人目の目にも同じようで、それらしく見えるのは世界共通のようですね。

甲羅干しの好きな欧米人は水着で水と戯れていましたが、水に入るには12月初旬はちょっと寒かったです。船内でも、欧米人は船上デッキで、長い間に寝転がって、日長日向ぼっこをしていました。

昼過ぎハロンを後に、バスは中国との国境モンカイを目指して進みました。

その途上、安子山（イエン・トウ山）にケーブルで登りました。結構、ケーブルでもきつかったですが、八合目に安置された陳仁宗（チャン・ニヤン・トン、竹林禪派の祖）の銅像の前で写真を撮り、無事降りてきました。

モンカイは中国人の入国で賑わっていました。

ベトナムではモンカイは大きな町ですが、中国側の東興はもっと大きな町でした。中国側には立派なビルが林立していますが、ベトナム側は芒の原です。



中国側から見れば、モンカイは絶好の製品輸出国であり、ベトナム側から輸入するものはほとんどが農産品でしょう。

大きなトラックがモンカイ側から中国へ向かっていきますが、このトラックは空です。ベトナム側からの輸出物資はないのでしょうか？寂しいですね。行きのモンカイ側から中国



へ向かう人は少ないのですが、帰りの中国人の多いこと。モンカイ側ではこの観光客だけが頼りのようです。

東興は大きな町でしたが、意外に車が少なく、大型バスは見かけませんでした。市内バスはミニバス（写真＝下右）が走っていました。

高校生が電動自転車に乗っていましたが、ベトナムとは違いヘルメットを被っていました。ハノイではその規制がないのかヘルメットなしで同じバイクに乗っています。

面白いと感じたのは、バイクに傘を差して乗っているのです。確かに日は差していましたが、ハノイからみればそう暑くはないと思いますが、さすが中国ですね。



上の写真のようなセラム（「バイクの後ろに荷台と座席をつけた三輪車風の乗り物」）が多く走っていました。この車はカーブでよく転倒しますが、小さくて狭い道でも乗り入れられますので便利ですね。

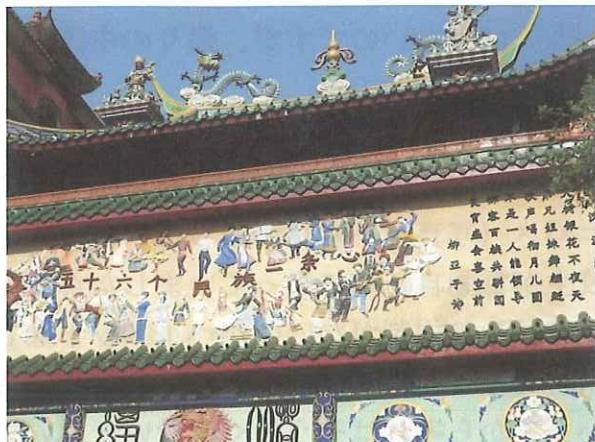
東興の街は意外に車が少なく静かでした。ベトナムとの国境で厳めしい軍服を着た人が多いのではと想像していましたが、やはり同じ共産主義、同盟国なのでしょうか。国境問題では揉めていますが、それは政治の関係だけあって、国民には関係のないことかもしれません。

日本人だといっても誰も表情を変えるわけでもなく、ただ、中国語はおろか、ベトナム語

も英語も通じないという変な感じをうけました。中国語は方言で、外国語は興味なしというのが本音でしょうか。

ベトナムが中国との国境を接する場所は、ここの外にラオカイ（中国側は雲南省河口）とランソン（中国側は広西省チワン族自治区憑祥市友誼關）があります。

ラオカイはサパ（少数民族の町）の入り口であり、欧米人も多いのですが、ランソンとモンカイは中国人ばかりのようです。時間帯にもよるのでしょうか、大型バスやトラックが走っていないのと、バイクも少なくて街は落ち着いて、静かでした。街の勢いという点では、モンカイのほうが元気がありましたが……。



東興觀音寺にお邪魔しましたが、いかにも中国風のお寺という感じでした。仏像が釈迦だけというのを見ると、上座部仏教なのでしょうか？ 我々以外に見学客は来ていませんでしたが、お寺自体も狭くて多くの客の収容は無理なようです。

お寺の建物の壁に描かれた絵の中に、「五十六个民族一条心」という文字がありました。中国の宗教界が抱えている複雑な事情の一端を垣間見た感じがしました。

最終日は少数民族館を見て、お土産を買いに走り、みなさん初めてのマッサージが気に入ったようでした。

中国だい好きの皆さんが帰られた後、天気は崩れ、今日は8度～15度ととても寒いです。サパには雪が30cm近く積り、来年は寒い冬になりそうです。

東京も今年は寒いとか、皆さま風邪をひかないようにお気をつけてください。

それではお元気でお過ごしください。

●編集後記

昨年秋パソコンが突然壊れたために、10月発行予定の号をお届けできなかつたことをお詫びいたします。新しいパソコンのOSであるWindows8に振りまわされながら、なんとか84号会報をお届けすることができました。本年もよろしくお願ひいたします。（T.Y）